

研修会内容(令和5年度)

参加者数
【1日目】 28団体 44名
【2日目】 24団体 32名



○プログラム

開催自治体：静岡県三島市

— 8月9日(水) 1日目(会員研修) 三島市民生涯学習センター —

●会員研修

【講演】講演①「デジタルツインによる「まち」づくり～VIRTUAL SHIZUOKA構想～」

静岡県知事直轄組織デジタル戦略局 参事 杉本 直也 氏

講演②「令和4年度福島県沖地震 被害認定調査業務について」

福島県南相馬市総務部税務課資産税係 副主査 野村 太一 氏

講演③「三島市の防災・減災に関する取り組み」

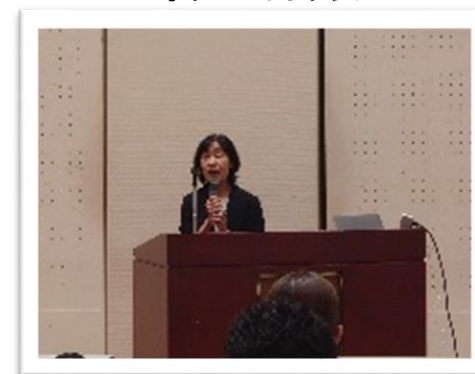
三島市企画戦略部危機管理課危機対応係 係長 大橋 慎一 氏

【質疑応答】

コーディネーター：常葉大学大学院環境防災研究科 教授 田中 聡 氏



歓迎のあいさつをする
三島市 豊岡市長



開会のあいさつをする
ネットワークおぢや重川副会長
(常葉大学 名誉教授)

研修会内容(令和5年度)

参加者数

【1日目】 28団体 44名

【2日目】 24団体 32名



○プログラム

— 8月10日(木) 2日目(会員研修及び視察) —

●会員研修及び視察

【講演】講演④「三島市 水に関するまちづくり」

計画まちづくり部みどりと水のまちづくり課 副参事 柿島 淳 氏

【視察】三島市内のまち歩き

観光ボランティアガイドによる案内



研修会の様子



当日の源兵衛川の様子

講演①

デジタルツインによる「まち」づくり

～VIRTUAL SHIZUOKA構想～

静岡県知事直轄組織デジタル戦略局 参事 杉本 直也 氏

静岡県では全県の3次元点群データ(X,Y,Zの位置情報を持つ膨大な点の集まり)を取得し、オープンデータとして公開していました。

そのため、土石流災害の時には県職員を含む有志の方達が被災前と被災後の地形差分を抽出し、流出した土砂の量を算出し、静岡県へ情報提供を行いました。そのデータを基に静岡県では崩壊地の監視計画等の作成を行いました。

また、津波浸水シミュレーションに活用し、VRで浸水の状況を体験できたり、街を仮想空間で作り出すことで仮想空間内で街づくりを行う際のメリット・デメリットの確認をすることができるようになり、デジタルツインによって新たな価値の創出が出来ることをお話しいたしました。



VIRTUAL SHIZUOKA 構築のため広範囲・高密度にデータ取得

	LP: 航空レーザ計測 (Laser Profiler)	ALB: 航空レーザ計測 (Airborne Laser Bathymetry)	MMS: 移動計測車両 (Mobile Mapping System)
計測方法			
計測内容	地表面及び樹木・建物など 	海岸及び水中部の地形 	道路及び周辺部の地物 
計測密度	16点/m ² 以上	1点/m ² 以上	400点/m ² 以上

講演②

「令和4年度福島県沖地震被害認定調査業務について」

福島県南相馬市総務部税務課資産税係 副主査 野村 太一 氏

税務課として主に対応した「り災調査」について、経験した事や苦勞した事、今後の課題と反省等をお話いただきました。

まず1次調査と2次調査の図面および調査の概要の比較の説明や、当時の調査体制の説明をしていただきました。1次調査では4月までの申請が3,000件以上あったなかで、4月中に調査終了を目指していました。また2次調査を含めると調査期間が1年を超える対応となり、職員は心身ともに疲弊をしました。

最後に反省点を説明いただき、応援者の仕事の割振りについてや、市民に対しての説明不足など、今後の災害発生の際の参考となるお話をしていただきました。



令和4年福島県沖地震
被害認定調査業務について

南相馬市 総務部 税務課
野村

講演③ 「三島市の防災・減災に関する取り組み」

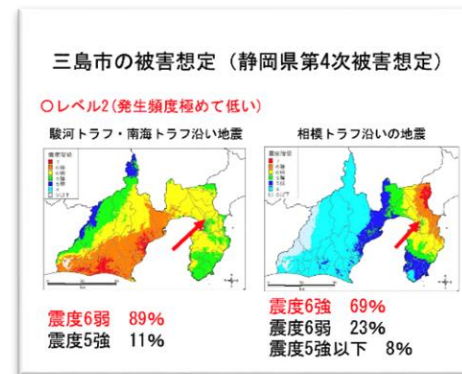
静岡県三島市企画戦略部危機管理課危機対応係 係長 大橋 慎一 氏

総会開催地である三島市では駿河トラフ・南海トラフ沿い地震及び相模トラフ沿いの地震の被害で6弱以上の震度が想定されています。

人的被害想定は津波による被害の想定がないため、被害が少なく見積もられており、建物被害想定は中心市街地の道路が狭く木造住宅が密集していることから、火災被害の拡大が懸念となっています。

発災後は被災者支援総合窓口を速やかに設置し、被災者に負担を掛けずに行うために罹災証明書の申請から相談業務をワンフロアで行う事にしました。

また、ネットワークおぢやの研修会に参加した職員が講師となって、住家の被害認定調査研修を職員研修で行ったり、早期に取り組んだ訓練として遺体措置訓練やペット同行避難訓練等も行い職員だけでなく住民も含めた訓練に取り組んでいることをお話しいただきました。



講演④「三島市 水に関するまちづくり」

静岡県三島市計画まちづくり部みどり水のまちづくり課
副参事 柿島 淳 氏

三島市では多くの誇るべき魅力(資源)が存在しており、その中でも市内を流れる湧水を中心としたまちづくりについてお話しいただきました。

源兵衛川や清住緑地、柿田川など2kmの距離に水辺スポットが集中しており、ウォーキングコースとしても現在は大人気であるが、工場の進出や住宅密集による水の使用量の増加などにより地下水が減ってしまいました。そこで三島市では住民・企業・行政が協働する、グラウンドワークトラストを平成4年から立ち上げました。

事業として、親水デッキや歩廊を新設し川と親しめる空間や、ホテルが再度飛び交うような整備を行いました。また、毎月第1土曜日にゴミ拾いツアーを開催し啓発をおこなっているなど、身近なもの大切さをユーモアにお話しいただきました。



現地視察



【視察】三島市内のまち歩き



柿島様の講演後、観光ボランティアガイドの案内により、三島市内の防災に関する史跡や源兵衛川の歩廊などを巡りました。当日は気温が高く、源兵衛川では多くの市民が涼を求めて川辺に集まっていました。

閉会のあいさつ

災害が発生した際には、各自治体でどのようなことが起こり得るのかということを想定しておくことが非常に重要になってくると思っております。

中越地震から20年を迎えるにあたり、ネットワークおぢやの今後を考えていく必要が出てきておりますので、皆様にご相談させていただく機会があると思いますが、その際はよろしくお願いいたします。暑い日が続くことが予想されており、さらに台風の季節が参りますので、健康に留意し、それぞれの業務にご尽力いただきたいと思います。



閉会のあいさつをする
ネットワークおぢや 大平事務局長
(小千谷市防災安全課 課長)

研修会参加者の感想

- ・静岡県、南相馬市、三島市の様々な取り組みをお話いただき、大変参考になりました。地域や組織は違えど、防災に関わる皆さんと顔を合わせることができ、ありがたかったです。
- ・実際の被災自治体の体験談を聞く機会は少ないので、とても貴重な経験をさせていただきました。部署移動が多いという役所の性質上、被災体験で得た学びの蓄積と伝承はとても難しいのだと感じました。
- ・南相馬市から話のあった被害認定調査業務については、実際に担当した職員ならではの本音を聞くことができ、非常に勉強になった。今後も、同じ市町村職員の立場から災害対応経験を共有していただけるとありがたい。
- ・新しい取り組みや情報、事例を踏まえたリアルな意見など、日々の業務では得られない知識や経験を得ることができました。